

JEC連合 1さん

平和行動の根室が9月6日～9月8日までの日程で開催され、派遣団として岐阜6名で参加しました。

9月8日11:00から開催された『2024平和ノサップ集会』には全国から1000名弱が一堂に介し、式典並びにアピールを行いました。

資料は事前にいただいていたが、行きのバスの中での映画『ジョバンニの島』を見て強烈な現実を目の当たりにしました。それまでは北方領土問題の認識が間違っていたことに気づかされました。終戦後にソビエトが島に来て占領し、2年後には島民を全員追い出すという暴挙。

また現在もロシアによるウクライナ侵攻があり、同様なこともおきていて、さらには4島のビザなし交流の廃棄まで起こってしまいました。

このことはロシアが日本北方4島を返還する機運の低いことがうかがい知れます。しかし領土交渉は竹島なども含めて粘り強い交渉が求められ、島民の語り部の時間もそんなに残っていないことを考えると、そこに見える島がさらに遠い島となってしまいます。一人でも多くの方が認識することが必要。

今回参加した教材の中でも映画『ジョバンニの島』イラスト付き『北方領土をご紹介します2024年版』を周りの人に広め、声を発していきたいです



JEC連合 Tさん

2024 平和行動in根室に参加してきました。

北方領土に関しての知識は、一般的な知識しかない状態での参加でした。バス移動の際に、ジョバンニの島というアニメ映画作品を鑑賞し、その後元島民の方々の講演会を聞き、終戦後、これから復興という時に、旧ソ連軍上陸・占拠、当時の島民の方々の悲しみや過酷な状況など、ひしひしと伝わってきました。今もなお実効支配が続いており、故郷へ自由に行くことも出来ず様々な思いで、返還を待っておられる元島民の方々も高齢化が進んでいる事を考えると、問題の早期解決、返還が重要だと改めて感じました。講演会の際に配られた資料がとてもわかりやすく、子供たちでも十分理解できるものでしたので、これからの若い世代に少しでも知ってもらいたいと思い、元島民の児玉さんをお願いし、追加で1部頂きました。地域の学校へ寄付など自分で出来ることから始めたいと思います。

JEC連合 Kさん

2024年9月6日から8日まで開催された「連合平和行動 in 根室」に参加しました。

7日に開催された「シンポジウム」では様々な貴重な話を聞くこともできましたが、特に印象に残ったのは元島民の方の話でした。彼女が実際に体験した話から、北方領土問題の現実を深く感じる事ができました。また8日に参加した連合主催の「2024平和ノサップ集会」の会場となった納沙布岬・望郷の岬公園からは、3.7km先に位置する歯舞群島の水晶島や、さらにその奥に見える国後島の山々を望むことができました。わずか数キロメートル先にあるのに、長い間取り戻すことができない「近くて遠い」北方領土の現実を、改めて実感しました。

戦後、元島民は約17,000人から5,500人程度にまで減少し、多くの元島民がふるさとに帰ることなく亡くなっている現状を思うと、1日でも早い北方領土の返還を求めないといけないと強く感じました。そして私たちにできることは、この問題を家庭や職場、地域社会で伝えていき、平和運動を広げることだと思いました。

情報労連 Tさん

北方領土問題とは何であったか。学生時代に学んだ記憶はあいまいだったため、軽く調べて当日を迎えました。

元島民の方の講話は衝撃を受けました。いかに不当な北方領土侵略が行われ、島民の方がどのような扱いを受けていたかを知りました。「強制送還では網袋に積まれて船に乗せられる。トイレ設備は脆弱で海が荒れると汚水を頭から被るほどだった」と語られていました。人としての尊厳を踏みにじられる行為があったこと、それを多くの日本人が知らないだろうことにやるせなさを感じました。

翌日の集会は晴天のもと、北方領土を目に出来ました。最も近い島までわずか3.7キロで「近くて遠い」という感覚を持ちました。こんな近くまで侵略されていたことに怖さを感じました。活動を通じ、正義を正しく行うためには平和的解決でなければ意味がないこと、継承と継続が必要であると学びました。動物好きな姪に「北方領土の動物たちの塗り絵」を渡し少しでも機会を作ることから個人活動を行おうと思います。

情報労連 Iさん

今回の平和行動in根室を通じて、一番印象に残っているのは元島民の鈴木様が発した「人と人との繋がり」という言葉です。

国境を越えた対話と相互理解が平和の礎になると感じ、日本及びロシアのお互いの文化と権利の尊重にて北方領土返還の早期解決が重要であることを改めて認識しました。

今までニュース等で北方領土問題が取り上げられた時には、自国の問題とはいえ、やはり遠方での出来事と捉えている気持ちがありました。ですが、今回の平和活動で納沙布岬から国後島、歯舞半島を目視で確認した時に、近くて遠い日本の領土なんだと改めて実感することが出来ました。

現在中学一年生の娘が社会の授業で北方領土問題を勉強しており、今回持ち帰った資料や写真、北海道で体感したことを家庭内で話し合うきっかけを作りました。娘は教科書のみでは伝えられない実際の体験談や現状などを聞いて、深く理解を進めているようでした。

今後、家庭内、職場内からでも平和行動に尽力出来ればと思っています。